

# 発電所だより

3月号

平成25年3月発行 東北電力株式会社女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tohoku-epco.co.jp/>

## 《女川原子力発電所の安全対策について（最終回）－訓練－》

「発電所だより」では、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえて実施している安全対策について紹介してきました。

最終回となる今回は、これまでに紹介してきた安全対策（ハード対策）が有効に機能するように、日々実施している「訓練」（ソフト対策）について紹介します。

女川原子力発電所では「重要な安全機能について、発電所の特性や最新知見などを踏まえ、ハード・ソフト両面から最適な対策を組み合わせながら、ある要因でひとつの機能が全て失われないよう多様化することによって、安全の厚みを加えていく」という考え方に基つき、さまざまな対策による安全性の向上に努めています。

**さまざまな状況を想定した訓練を日夜積み重ねています。**

### 電源確保



電源車の接続訓練



大容量電源装置の  
起動訓練

### 冷却機能確保



代替注水車（可搬式ポンプ）や  
消防車を使った水源確保訓練



送水車（代替海水ポンプ）での送水訓練

### さまざまな訓練（一部）



全交流電源喪失時を想定した  
シミュレーターによる運転訓練



ホイールローダーによる夜間の  
がれき撤去訓練



タンクローリーでの燃料補給訓練



全交流電源喪失時を想定した  
格納容器ベント弁現場操作訓練

### その他

訓練のほかにも、各種安全対策の手順書の整備や原子力防災体制（災害対策支援拠点、原子力施設事態即応センターの整備等）の検討などの対策を進めています。

**今後とも新安全基準にも確実に対応しながら、さらなる安全性の向上に向け、一步一步着実に安全対策を進めてまいります。**



## 《世界原子力事業者協会 (WANO) ストリッカー議長が当発電所を視察されました》

2月7日、WANO\*のローレン ストリッカー議長(当時)が当発電所を訪問されました。当日は、当発電所から震災時の状況についてご説明したほか、震災後に安全対策として設置した防潮堤や送水車(代替海水ポンプ)、大容量電源装置などを視察いただきました。

視察後、ストリッカー議長からは「東日本大震災にも耐えるほどの敷地の高さに発電所を建設したことは、皆さんのプラントを守る能力すなわち安全に対する姿勢の非常に良い表れである」「震災時に、家族の安否もわからない中、それぞれ最大限の力を尽くし、勇敢に業務に従事した皆さんに敬意を表したい」「世界は、皆さんをはじめ我々原子力関係者が何を行うかに注目しており、私たちはそれに応えるという重要な責務がある」等の訓話を頂戴しました。

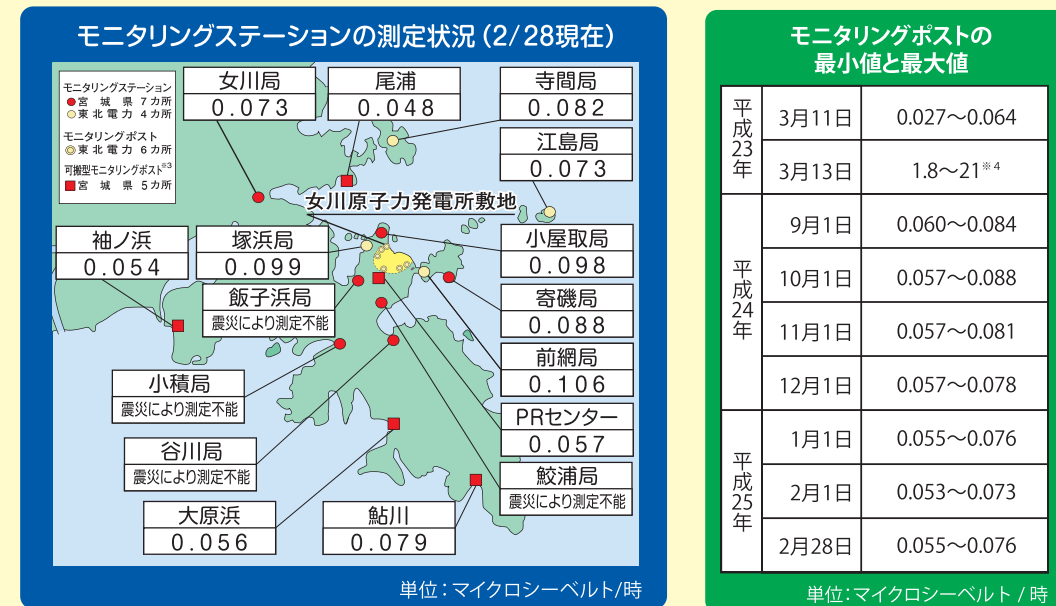


※ WANOとは、原子力発電事業者が相互に情報交換や技術支援を行うことにより、原子力発電所の安全性や信頼性を最大限に高めることを目的に1989年に設立された国際的な民間組織で、当社も設立以来、会員として参加・協力しています。

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト\*1やモニタリングステーション\*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い、震災前よりも若干高い値を示していますが、最大で0.076マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、至近6カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

## 《女川原子力発電所の状況について》

東北地方太平洋沖地震により、女川原子力発電所の全号機は設計どおりに自動停止し、安定した状態で安全に停止しています。現在、定期検査を実施し、設備点検、復旧作業を進めています。

現在実施している定期検査の1月分として、トラブルなどはありませんでした。

また、当発電所から日本原燃(株)六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターへ、低レベル放射性廃棄物440本を2月に輸送することとしていましたが、輸送時期を来年度(平成25年度)以降に延期することとしました。

原子力発電所から低レベル放射性廃棄物を搬出するにあたっては、廃棄物が法令に定められた技術基準に適合していることを検査する必要がありますが、この検査に用いる検査装置の設置位置がずれていたことが確認されたため延期することとしたものです。

最新の情報は当社ホームページ(<http://www.tohoku-epco.co.jp/>)に掲載しています。